

コースコード：RH-RH401

税抜価格：360,000円

日数：4日間

前提条件

・RHCE認定または、同等のスキルレベルをお持ちであること・適切なスキルセットの知識を持っているかどうか分からない場合は、オンラインスキルチェックで確認してください

受講対象者

・Red Hat Enterprise Linux の上級システム管理者で、複数の物理サーバーまたは仮想サーバーの計画、デプロイ、および管理を担当している方

・Red Hat エキスパート試験 - 導入およびシステム管理 -

(EX401)を受験予定の方

コース概要

このコースは、Red Hat Enterprise Linuxシステムの大規模なデプロイと管理を成功に導くために必要な概念と方法を学習します。

経験豊富なシステム管理者を対象としており、管理者チームによる管理が可能なシステムとなるようにRed Hat Enterprise Linuxシステムのデプロイメントを効率的に実装および管理する方法について学びます。

コースの中心は、Red Hat Enterprise

LinuxシステムのデプロイとプロビジョニングのためのRed Hat Network Satelliteサーバーの使用方法です。

このコースを修了すると、独自のRPMパッケージの作成と、Subversionを使用したスクリプトの変更ができるようになります。

目的

Red Hatのシステムを、エンタープライズ標準となる信頼性、可用性、拡張性、管理性を持って導入と管理を行なう方法を学習することを目標としています。

アウトライン

1. システム管理の基本



効果的なシステム管理のための高いレベルの目標設定

2.Red Hat Satellite のインストール

Red Hat Satellite

サーバーのインストールおよび、ソフトウェアチャンネルコンテンツのインポート

3.Red Hat Satellite の組織

Red Hat Satellite の組織、ユーザー、システムグループの作成と管理

4.Subversion を使用した変更管理

Subversion リポジトリの初期化と設定、新しい Subversionプロジェクトの開始、およびSubversionを使用したリビジョンの管理

5.Red Hat Satellite クライアントの設定

対話形式と自動化の両方による、Red Hat

Satelliteを使用したクライアントマシンの登録

6.Red Hat Satellite ソフトウェア管理

クライアントシステムのソフトウェア更新を管理するための、カスタムおよびクローン化されたソフトウェアチャンネルの使用によるRed Hat Satelliteの設定

7.RPM パッケージの作成

プログラムとファイルをクライアントシステムへのデプロイを可能にするための、Red Hat Satellite で使用する RPM パッケージの作成

8.Satellite による設定ファイル管理

個別の設定ファイルをクライアントシステムにデプロイするためのRed Hat Satelliteの使用

9.Red Hat Satellite によるプロビジョニング

Red Hat Enterprise Linux

システムをベアメタルからプロビジョニングするためのRed Hat Satelliteの使用

10.Red Hat Satellite の管理

組み込みデータベース管理などのRed Hat

Satelliteの保守機能の実行、新しいエンタイトルメント証明書によるSatelliteのアクティベート、およびカスタムのソフトウェアチャンネルコンテンツのエクスポート

11.Red Hat Satellite API とレポート

シンプルなレポートの生成、および基本的な管理タスクを実行のためのRed Hat Satellite API の使用

12.Red Hat Satellite 仮想マシン管理

仮想化ホストや仮想化されたゲストをプロビジョニングするためのキックスタートプロファイルの作成、およびRed Hat Satellite エンタイトルメントの管理



13. 学習内容の包括的な確認

コースの資料の再確認、およびRed Hat Satellite サーバーのデプロイ